

神戸震災復興記念公園の業務実績（実施設計（造成・植栽・設備、設計管理（住民参加型）



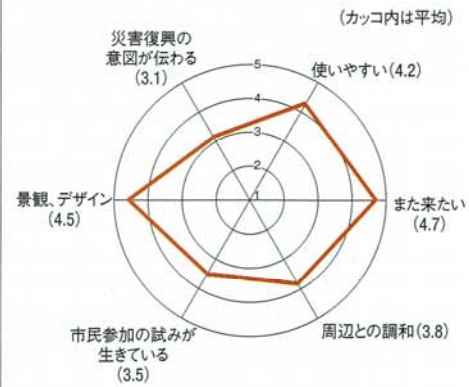
市民の復興への思いを公園に刻む

神戸震災復興記念公園(神戸市)

被災地復興のシンボルとして1月17日に開園した神戸震災復興記念公園は、大規模火災時などの広域避難場所としての役割も併せ持つ。公園の頭上を阪神高速道路、国道と市道の浜手バイパス、ポートライナーが通る。敷地内に複数の管理者の高架橋があり、神戸市はその下をスポーツ広場などに有効活用した(写真:特記以外は生田 将人)



利用者の評価



利用者の声

遊具が欲しい
 冬季の平日は、比較的暖かい正午過ぎが、最も利用者が多い。
 子どもを連れて来ていた20～30歳

代の女性グループからは「1～3歳児用の遊具や砂場があればいい」(30歳代女性)、「大人のためには、日差しや風を防いでくれる屋根のある場所が欲しい。今ある苗木が育てば、素敵な木陰になるのかなと思う」(30歳代女性)といった声が寄せられた。

オフィス街に近いので、昼休みには会社員の姿も目立つ。「会社の近くなので使いやすい。毎日、同僚とサッカーをしている」(30歳代男性)、「ランニングコースが整っている。毎日、3周走るようにしている」(40歳代男性)などの利用者も。ベンチで食事していた20歳代の男性は、「社内でこの場所を知っている人はまだ少ない。分かりづらいのでは」(20歳代男性)と話す。

「きれいだし、家が近いのでよく来る。イベントがあればうれしい」(30歳代女性)というリクエストもあった。

事業者の説明

幼児用の遊具は、完成後の利用状況に応じて、検討していきたい。現状では、井戸を掘っているので、夏場などに、くみ上げた井戸水の流れて遊んでもらうことができる。

「語り継ぎ広場」には被災建築物の部材や被災樹木があるが、まだ説明板がないので、震災関連のモニュメントだと気付かない市民もいるだろう。説明板は3月末までに設置する。

これからも市民と話し合いながら、「つくり続ける公園」としていきたい。(神戸市建設局公園砂防部緑地課の青木孝知課長)

【アンケートの概要】神戸震災復興記念公園で休んできたり散歩していたりした近隣の住民や会社員など計22人(男性15人、女性7人)に、5段階評価の質問に答えてもらった。5が満点で1に近付くほど評価が低い

広場の舗装は市民が使って見て検討

ニュースポーツ広場の設計では、費用や技術の条件を踏まえ、市民の使いやすさへのこだわりができる限り応えた。

広場の舗装材は、メーカーと施工会社の協力のもと、試しに現場の一部にコンクリートの平板舗装をして、市民が使ってみた。すると、目地のせいでガタガタしたので、目地の機能はなくして、1cm近くの開きをびったりくっつけたうえで、平たんになるよう改良した。

舗装材の種類や色は、スポーツの種類によって変えた。インラインホッケーなどのコートはコンクリート舗装、インラインスラローム(障害物の間を縫っての滑走)などのコートはアスファルト舗装の後、1.3mmのカラー塗布舗装をする。BMX(専用の自転車で障害物のあるコースを走行)やスケートボードといった「B3スポーツ」のためのコートに設置するスケート台では、滑走面の材質で意見が分かれた。ポリエチレン塗装をした金属の方が耐久性は高いが、フェノール樹脂

を浸した繊維圧縮板の方が滑りやすい。繊維圧縮板にした場合は、2年保証があるが走行で傷つきやすいので、時期によっては修繕費が年間100万円近くかかる可能性がある。それでも、税金を使わずに、イベント開催で資金を集めるなどして利用者が賄いたいとの意見が利用者から挙げたことなどから、繊維圧縮板に決めた。

B3コートには、半円形の重力式擁壁(右上の写真)も設置する。擁壁の頂上部の内側は、スケートボードで昇降するときにぶつかるので、パイプを張り付けた。このパイプやコンクリート面のカーブは加工が難しい。適切な角度の判断にも利用者の意見を取り入れるため、設計者は、「あの公園の擁壁が良かった」と聞けば、その発注者や設計会社、施工会社



スケートボードなどで利用する重力式擁壁。建設中(写真:中川 美帆)

に問い合わせたり、インターネットで調べたりした。

ニュースポーツ広場ができる場所には商店街があって、用地買収が遅れた。すべての用地買収が完了したのは08年夏。用地買収の遅れに加え、市民と検討を重ねたことから、完成は10年3月に延び、開園には間に合わなかった。高架橋の耐震補強工事もあるので、全面開放は4月になりそうだ。

災害時は広域避難場所に

神戸震災復興記念公園は、JR三ノ宮駅から徒歩約10分、神戸市役所から徒歩約5分と近く、周辺にはオフィスビルや高層マンションが増えている。このため、都心の防災機能を強化する役割も負っている。園内には、災害時用の仮設トイレや備蓄倉庫、雨水貯留槽、自家発電機などを整備した。

散歩中の60歳代の男性は「初めは税金の無駄遣いだと思ったが、公園を見て回るうちに災害時の避難場所として様々な仕掛けがあると知り、必要な施設だと思うようになった」と熱心に語った。

整備手法には、「防災公園街区整備事業」を採用。市街地などの防災機能の強化を目的に、工場跡地などの用地を取得するとともに、防災公園と周辺市街地を一体で整備する。



備蓄倉庫



災害時用の仮設トイレは全部で64基。マンホールを開けて取っ手を引っ張るとトイレが出現する



道路沿いにある避難場所の標示(写真:中川美帆)



出現したトイレにテントを取り付ける(写真:都市再生機構)

神戸震災復興記念公園の整備計画図



【プロジェクト概要】

■名称=神戸震災復興記念公園(愛称:みなとのもり公園) ■所在地=神戸市中央区浜辺通 ■事業主体=神戸市、都市再生機構 ■基本計画=市民ワークショップ ■基本設計=基本設計懇話会・みなとのもり公園検討会 ■実施設計=エイト日本技術開発、環境緑地設計研究所(ニュースポーツ広場)、ジャス(建物) ■工事監理=エイト日本技術開発、URサポート ■施工者=丸山造園、丸正建設、タイキ、関西植木 ■工期=2007年11月～10年3月 ■工費(設計費を含む)=15億円(設計・施工中のため2月初旬時点の金額) ■面積=約5.6ha